

平成30年6月7日現在

機関番号：25407

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K13186

研究課題名(和文)戦後沖縄児童文化に南洋が与えた影響 - 儀間比呂志のライフサイクルと仕事を通して -

研究課題名(英文)Influence of the South Pacific on Children's Culture in Postwar Okinawa as Seen from the Life and Works of Hiroshi Gima.

研究代表者

齋木 喜美子(SAIKI, KIMIKO)

福山市立大学・教育学部・教授

研究者番号：30387633

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、戦前に南洋群島での生活経験を持ち、南洋の文化を芸術表現の糧として取り込んで、戦後の絵本制作に引き継いでいった儀間比呂志(1923-2017)に着目した。儀間の子どもの本の仕事を通して、南洋文化を背景とした戦後沖縄児童文学・文化の系譜について考察し、論文にまとめた。また赤松俊子(1912-2000)や土方久功(1900-1977)など、儀間と同様に南洋群島に向かったのちに子どもの本の仕事に取り組んでいった複数の芸術家にも言及し、儀間との比較研究を行うとともに、彼らの南洋群島での活動、戦中～戦後に発表された子どもの本の仕事を調査し、その成果の一部を所属学会にて発表した。

研究成果の概要(英文)：In this study, we focused on Hiroshi Gima (1923-2017), who lived in the South Pacific Islands during the prewar era. He incorporated elements of the South Pacific culture into his artistic expression, and this influence was manifested in his postwar picture books. This report summarizes our discussion about the cultural genealogy of postwar Okinawan children's literature and culture, which has its background in South Pacific culture, as seen through Gima's work in children's books.

We also discuss other artists, such as Toshiko Akamatsu (1912-2000) and Hisakatsu Hijikata (1900-1977), who also began to create children's books after their experiences in the South Pacific Islands. We performed a study comparing these artists with Gima, while also investigating their activities in the South Pacific Islands, and we provide insights into children's books that were published during and after the war. We have already presented part of these findings to our affiliated academic society.

研究分野：教育学

キーワード：戦後沖縄 絵本 儀間比呂志 南洋群島 美術 文化

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は長年にわたり、沖縄の児童文化史および、教育史分野の研究に取り組んできた。近年ではとりわけ、戦前から戦中にかけての子ども本の作家・作品研究、作家の子ども観や思想の形成過程の解明に力を注いできた。本研究テーマは「川平朝申のライフコースを基軸とした戦前から戦後沖縄の教育・文化実践史研究」(基盤研究(B))に取り組んでいる過程で着想を得たものである。本研究開始当初に意識された新たな課題は、戦後沖縄の教育や文化に影響を与えた南洋ルートの芸術・文化の実態と思想的背景を総合的にとらえる研究視点の必要性であった。

従来沖縄研究における南洋への着眼は、柳田國男を祖とする民俗学研究が中心であった。近年ではさまざまな研究関心からのアプローチがなされており、日本の南洋統治と沖縄移民を国際関係研究の視点から追求した今泉裕美子の論考や、岡谷公二による南洋を源流とした美術史研究等に一定の成果が見られる。しかし、南洋文化の継承が戦後沖縄の児童文化・文学にどのような意味を持ったのかを明らかにし、その系譜を評価しようとする研究課題については未開拓の分野であったといえよう。

そこで本研究では、南洋文化の流れを汲む子ども本の系譜のひとつである儀間比呂志の絵本に着目した。芸術家が子どもに向けて発信した作品に込められた子どもへのまなざしと歴史性、時代の課題、南洋を文化的背景地とした戦後沖縄文化の水脈を解明する研究視点は挑戦的萌芽研究にふさわしい先駆的なテーマであると考えたことが、本研究の背景となっている。

### 2. 研究の目的

本研究では、研究期間内において下記の3つの課題を明らかにすることを目的としている。

儀間比呂志のライフサイクルとライフヒストリー研究を通して、作品の表現と思想について明らかにする。

儀間のライフサイクル研究を軸に、戦前の南洋における芸術・文化の文献研究を行い、絵本表現に現れた作品の特徴や南洋文化の影響、思想の背景について明らかにする。

儀間比呂志絵本が、沖縄の現代教育や子どもの文化に果たした意味を検討する。

沖縄教育史研究、日本児童文学研究の成果に加え、儀間作品の表現や思想の変化を時代軸にそって分析し、戦後沖縄の教育・文化の課題に儀間が果たした役割を示す。

研究を統合し、南洋文化継承を背景地とした戦後沖縄児童文化・文学の系譜を評価する。

戦前から戦後、そして現在を貫く沖縄の教育、児童文化・文学における南洋文化の影響、その系譜について明らかにし、南進論に限定されない現代的意味を再評価する。

### 3. 研究の方法

前述した研究目的を実現するための研究方法とその手順は以下の通りである。

儀間比呂志のライフサイクルおよびライフヒストリー研究と作品研究を行う。

儀間のライフサイクルと、それぞれの時期における沖縄教育・文化の展開過程を合わせ考察し、文章や絵に現れた南洋芸術、文化の影響、作品の思想的背景を探る。

儀間比呂志絵本の現代的評価に関する研究を行う。

で解明した戦後沖縄教育・文化の課

題に対して、儀間の絵本が果たした役割をまとめる。

上記を総合し、南洋文化継承を背景地とした戦後沖縄児童文化・文学の系譜を評価する。

上記をさらに具体的に述べたい。

に関しては、先行して研究の一部成果を2013年7月、沖縄文化協会研究発表会にて報告し、儀間比呂志絵本の書誌をまとめた。儀間が絵本作家となった1970年は、沖縄の施政権返還を目前に本土でも「沖縄」教材がピークを迎えた時期で、沖縄学習が全国に広まっていた。また儀間絵本創作の初期には、薩摩藩の圧政と厳しい自然のもと、前向きに生きようとした民衆の姿を描いた作品が集中している。この一致には必然性があったと考えられる。

そこで、引き続き本研究では、沖縄的文化が否定された時期に学齢期から青年期までを終えた儀間が、本土での沖縄ブームとでもいうべき熱気をどう受け止めたのか、沖縄の歴史・文化・思想の面での問い直し、絵本という表現媒体でどのようになされていたのか、沖縄の歴史的展開過程の研究と聞き取り調査を合わせて解明することとした。並行してでは、絵本の美術表現に現れた南洋の気候風土や文化様式について検討し、儀間作品の主題と思想のさらなる分析、解明を行う。

また、儀間の絵本が本土復帰後の沖縄においてどのように取り扱われ、評価されてきたのか、儀間の絵本が与えた社会的インパクト、その歴史的意味に解釈を加える。

に関しては、まず大正末から昭和初期にかけて南洋へ渡った芸術家、土方久功 - 杉浦佐助 - 儀間比呂志の三代にわたる師弟の芸術表現の特徴を明らかにする。

また、儀間と同じく南洋に渡ったのちに子どもの本の仕事に関わっていった赤松俊子(のちの丸木俊)と土方は、南洋でも交流があったことが知られている。芸術家の自己表現が「子ども」に向かう時には、何らかの意識の変革があり、作品にはその教育観と児童観が投影されていると考えられる。南洋文化を享受した芸術家たちが戦後絵本創作に向かったのは何故なのか、その背景を調査する。さらに彼らの絵本表現と儀間の絵本を比較検討し、その違いを鮮明化していく。最後に、彼らの南へと向かう思想が戦中に形成されたことが戦後どのような変化を遂げたのか、その連続性と不連続性を探る。

#### 4. 研究成果

初年度は研究の準備段階と位置づけ、研究環境の整備と情報収集に努めた。まず初めに、儀間に加え、1950年代から儀間とともに『琉大文学』で沖縄の政治や文学について論争し、文化運動の一翼を担ってきた新川明氏、川満信一氏、儀間の姪でギャラリー経営の安里妙子氏への聞き取り調査を実施した。その過程で新川氏からは儀間の芸術活動に関する論考をお送りいただき、多くの示唆を得ることができた。ただし、残念ながら体調不良により、儀間本人への聞き取り調査を実施することはできなかった。その代替措置として、近代以降の沖縄教育、児童文化・文学関連の文献収集に加え、儀間が沖縄をテーマに芸術作品を発表し始めた1950年代以降の画集、美術雑誌や新聞、沖縄のローカル雑誌に掲載された儀間の記事を調査し、情報の蓄積を行った。また、戦前・戦中の南洋を取り扱った教材や児童文学、絵本の作品調査を行い、テーマと傾向をつかみ、実態を把握した。

研究期間の2年目には、前年度に蓄積した資料や聞き取り調査から、儀間の生育史、教育史、南洋体験等、思想的背景を明らかにし

ていった。また、矢野 暢、今泉裕美子、小林茂子らの南洋史観や沖縄移民の研究、岡谷公二の南洋美術史研究などの先行研究に目配りしつつ、儀間の絵本表現にみられる特徴や南洋美術の系譜について分析した。

さらに、土方久功、赤松俊子が戦後絵本制作に向かった背景を調査し、作品に現れた子どもに向けられたまなざしについて考察し、その系譜と儀間との差異を明らかにした。土方に関しては「母の友」(福音館書店)に掲載されていた作品を発掘したが、その執筆動機や作品内容の分析については現在なお継続調査中である。赤松俊子の子どもの本の仕事については研究成果を所属学会にて発表する準備を進めた。

最終年度には資料データの不備を正し、確認するための追加調査と補強を行なった。とりわけ、儀間が自身の年譜等で師事したと表明していた版画家・上野誠のご子息である道氏に聞き取りを行い、若き日の儀間の思い出や上野に何を学んでいたか等、多くの示唆をいただくことができたことは収穫であった。

また調査の過程において、南洋群島に渡った赤松俊子が絵本の仕事に携わった背景には、同じく南洋群島への渡航体験のある北川民次の興した「コドモ文化社」設立との関わりが深いことが浮上してきた。北川の「コドモ文化社」には美術家の久保貞次郎の経済的援助があり、初期の絵本制作に向けて、北川は何度か書面で久保に絵本の構想について書き送っていた。物資が乏しく出版規制もあった戦中において、良心的で良質な絵本を子どもたちに届けたいと願って活動していた美術家たちの存在があったことは貴重であるため、「コドモ文化社」設立背景についてさらに詳しく調査することになった。この課題については、研究期間終了後も引き続き調査と考察を深めていきたいと考えている。

最後に、戦後沖縄に継承された南洋文化のルーツについてその意味と意義を中心に論

考をまとめ、所属大学の研究紀要の論文にまとめた。本論考によって、これまで未解明であった儀間のライフヒストリーを明らかにできた。加えて、戦後沖縄の児童文化・文学に果たした儀間の役割から逆照射することで、従来の南進論に限定されない新たな文化ルートの解明と、南洋文化の再評価に繋げることができたと考える。

しかし、大変残念なことに 2017 年 4 月に儀間が逝去したため、ご本人への聞き取りについては最後まで実現することができなかった。ご存命中に研究成果を届けられなかったことは、遺憾であった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

齋木喜美子、「絵本作家・儀間比呂志に見る「南洋群島」美術の系譜」、福山市立大学教育学部研究紀要、第6巻、査読有、2018、pp.31 - 44  
DOI : [http://doi.org/10.15096/fcu\\_education.06.04](http://doi.org/10.15096/fcu_education.06.04)

齋木喜美子、「沖縄の児童文学の創作活動と民話の収集活動」、研究子どもの文化、No.17、査読なし(依頼原稿)、2015、pp.27 - 34

〔学会発表〕(計 1 件)

齋木喜美子「『南洋群島』をくぐった画家の子どもの本の仕事」、日本児童文学学会第 56 回大会、於・岡崎女子短期大学・岡崎女子大学、2017

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

立命館大学国際平和ミュージアム開館  
5周年記念、2017年度秋季特別展、「儀  
間比呂志版画展 - 沖縄への思い - 」(20  
17年11月1日～12月23日)の展示会図録  
の「儀間比呂志絵本作品書誌」作成へ  
助言・協力。

齋木喜美子、解説「絵本のたのしみ」『り  
ゅうになりそこねたハブ』こどものと  
も308号(復刻版)折込付録、2016

6. 研究組織

(1) 研究代表者

齋木 喜美子 ( SAIKI, Kimiko )  
福山市立大学・教育学部・教授  
研究者番号：30387633

(2) 研究分担者

喜久山 悟 ( KIKUYAMA, Satoru )  
熊本大学・教育学部・教授  
研究者番号：50273876

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：

(4) 研究協力者

( )